



ジャスミン茶号

第188号

発行日：令和元年9月1日

発行者：医療法人 博愛会

福田脳神経外科病院

院内情報委員会

診察室から～ボトックス治療～

理事長 福田 雄高

当院で行っている治療のひとつにボトックス治療があります。主に片側顔面痙攣(けいれん)という病気に対して行っていますが、最近はおかかりつけの患者さんを中心に、痙縮(けいしゅく)という脳卒中後に手足の筋肉が固くなってしまふ病気にまで行うこともあります。

皆さんもよく疲れがたまった時などに、まぶたがぴくぴくする経験などないでしょうか。一時的なもので、そのうちおさまることが多いかと考えます。しかし、顔面の半分だけ、なかなかぴくぴくがとまらずに続くことがあります。これは片側顔面痙攣という病気になります。

原因ははっきりわかっていませんが、頭部 MRI 検査を行い、神経に脳の血管が圧迫していることがあれば、手術を行い圧迫を解除することで、症状が改善する可能性もあります。但し手術になると、皮膚を切開し、頭蓋骨を取り除き、脳の表面を触ることになります。麻痺や意識障害などの合併症が、術後に低い可能性ですが、出現する危険性があります。

ボトックス治療は、ボツリヌストキシンという天然のタンパク質を、痙攣している筋肉に注射します。ボツリヌストキシンは筋肉をやわらかくする作用があります。あくまで一時的(3-4ヵ月程度)ですが、ぴくつきがおさまります。個人差があり、半年ぐらい効果がある方が時にいる一方で、2-3ヵ月しか効かない方もいます。

利点は重大な副作用が稀なことですが、欠点は効果が一時的であったり、少々費用がかかることです。3割負担では、大体15000円程度になります。

また脳梗塞発症後、時間が経つと、麻痺した筋肉が固くなってしまひますが、固くなってしまふことを痙縮といいます。これもボトックス治療の適応になります。手足の固くなっている筋肉に注射を行うことで、筋肉の緊張がやわらぎ、痛みの改善であったり、スムーズに動きやすくなる、介護がしやすくなるなどの効果が期待できます。

患者さんによって治療の適応が限られますが、一度興味がある方は医師やスタッフにも気軽にお尋ねください。

